I·O DATA

WN-G54/AXP 取扱説明書

131789-01

【ご注意】

1)本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2)本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4)本製品は日本国外では使用できません。
5)本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6)本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7)お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
8)弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

● I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
● Microsoft,Windowsは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
● その他、一般に会社名、サービス名、ソフト名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

まずすること

セットアップ

応用操作

その他

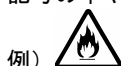
必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）　「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。
また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

分解禁止

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有料修理となる場合があります。

電源プラグを抜く

煙がでたり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

発火注意

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

厳守

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

禁止

給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。

給電されているケーブルを接続すると、発煙したり、火災の原因になります。

水ぬれ禁止

本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場などでの使用は火災・感電・故障の原因となります。

禁止

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。また、絶対に通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

禁止

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

厳守

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

禁止

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータから本製品を取り外してください。

禁止

日本国外で使用できません。

⚠ 注意

注意

本製品を使用中に、データが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。

また、故障などに備えて定期的にバックアップを行ってください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所

●直射日光のあたる場所

●湿気やホコリが多い場所

●温湿度差の激しい場所

●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）

●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）

●水気の多い場所（台所、浴室など）

●傾いた場所

●本製品通風孔をふさぐような場所
（保管は問題ありません）

●腐食性ガス雰囲気中（$ＣＩ_2$、$Ｈ_2Ｓ$、$ＮＨ_3$、$ＳＯ_2$、$ＮＯ_X$など）

●静電気の影響の強い場所

●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない

●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない

●重いものを上にのせない

●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

禁止

パソコンから本製品にアクセス中にパソコンや本製品の電源を切ったり、リセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下および次ページの注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器など
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話/PHS/テレビ/ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話/PHS/テレビ/ラジオなどは、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信やこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：サポートセンター　電話：　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。

・ぬらさないでください。

・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。

・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・修理について

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 12ページ

▼

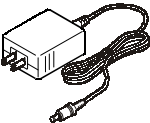
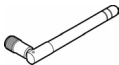
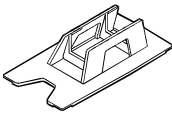
動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞ 13ページ

▼

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 16ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながら
ご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

内容物	
□ アクセスポイント（1台）	□ LANクロスケーブル（1本：約1m）
□ ACアダプタ（1個）	□ スタンド（1個）
□ アンテナ（1個）	□ スタンド用ゴム足（4個）
	□ ハードウェア保証書（1枚）
	□ 「無線LANについて」シール（1枚）
	☑ 取扱説明書（1冊：本書）

注意！

■箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
■イラストは若干異なる場合があります。

参考

《ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードについて》
ユーザー登録をする際や、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にシリアル番号が必要な場合があります。
シリアル番号は本製品に貼られているシールに印字されている12桁の英数字です。（ 例： ABC1234567ZX ）

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

●ユーザー登録 ⇒ http://www.iodata.jp/regist/
●サポートソフトのダウンロード ⇒ http://www.iodata.jp/lib/

動作環境を確認する

本製品と通信できる無線LAN機器
IEEE802.11g※1、IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。 弊社製品例（最大リンク速度） ●WN-G54シリーズ（54Mbps） ●WN-AGシリーズ（54Mbps） ●WN-B11シリーズ※2（11Mbps） ●WN-ABシリーズ（11Mbps）

※1 IEEE802.11gは現在ドラフトです。IEEEによる正式承認後、弊社Webサイトにて正式にご案内いたします。なお、本書内のIEEE802.11gという記述はすべて「IEEE802.11g(ドラフト)」を指します。

※2 WN-B11/LANは除きます。

注意！

■本製品はアクセスポイントです。そのため、弊社製無線ブロードバンドルータ「WN-G54/BBR」など他のアクセスポイント（本製品同士も含む）とは通信できません。(アクセスポイント同士の通信はできません。)

■以下の弊社製品とは通信できません。

- WN-A54 シリーズ
- 「WN-B11/LAN」
- 無線 LAN PC カード「PCWN-W10」
- コードレスネットワークシンフォニーシリーズ「WN-S/560」「WN-S/PCI」「PCWN-S」
- 無線スイッチングハブ「WNA-FSWH4」

■弊社製電源延長 BOX「WN-OP/POW」は使用できません。

本製品の設定ができるパソコン	
機種	OS（日本語版に限る）
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーの DOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98 Second Edition

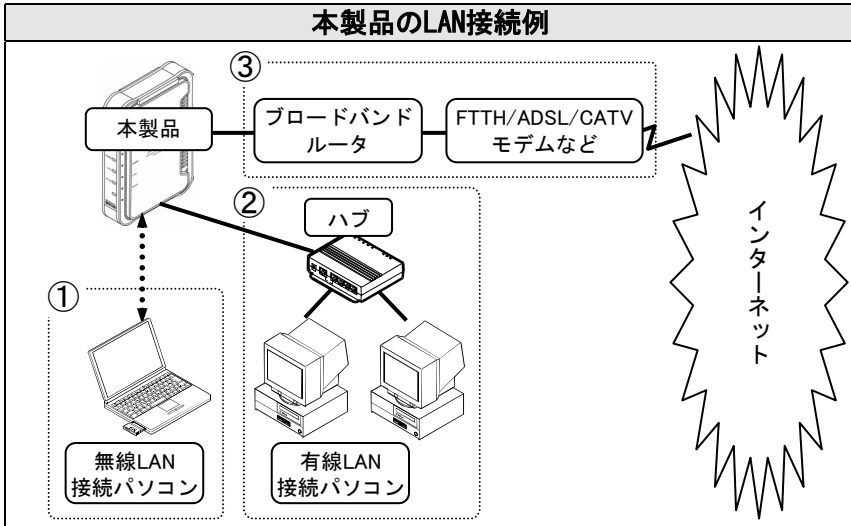
注意！

弊社では、上記のOSでご利用いただく場合のみをサポート/保証範囲とさせていただいております。Mac OSやUNIX系OS（Linux）などでご利用いただく場合はサポート/保証対象外となります。

設定に必要なソフトウェア
本製品を設定するには、以下のバージョンのWebブラウザが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。 Internet Explorer バージョン5.0以上

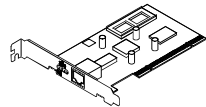
参考

Internet Explorerのバージョン情報は、Internet Explorer画面の[ヘルプ]→[バージョン情報]で確認できます。

本製品のLAN接続例

①：無線LAN接続する

【本製品と通信できる無線LAN機器】（13ページ）を搭載したパソコンと通信できます。
（無線LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバソフトなどをインストールしておきます。※1）

②：有線LAN接続する※2

LANポートを搭載したパソコンと接続できます。
（LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバソフトなどをインストールしておきます。※1）
複数のパソコンを接続する場合は、別途ハブとパソコンの台数分のLANケーブルが必要です。

③：本製品を通してインターネットに接続する※2

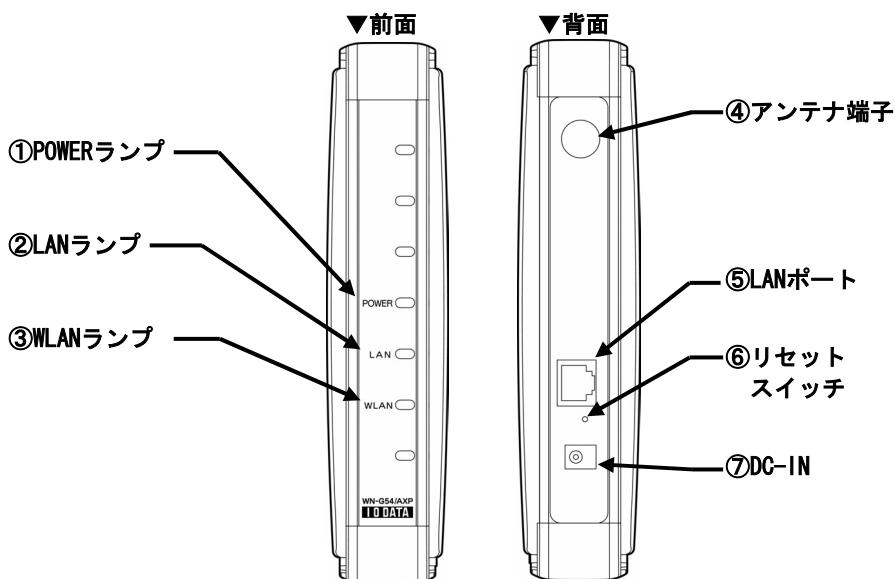
別途ブロードバンドルータやFTTH/ADSL/CATVモデムなどが必要です。※1
本製品⇔ブロードバンドルータ⇔FTTH/ADSL/CATVモデムを、LANケーブルで有線LAN接続するとインターネットに接続できます。

※1 LANアダプタ、ブロードバンドルータ、モデムの設定は、各取扱説明書をご覧ください。
※2 ②、③を同時に接続する場合は、②のハブに③のブロードバンドルータを接続します。

各部のなまえとはたらき

▼前面　▼背面

①POWERランプ
②LANランプ
③WLANランプ
④アンテナ端子
⑤LANポート
⑥リセットスイッチ
⑦DC-IN

POWER
LAN
WLAN
WN-G54/AXP
I O DATA

名称	機能
①POWERランプ	緑点灯：電源ON 消灯　：電源OFF
②LANランプ	緑点滅：100BASE-TX接続で送受信中 橙点滅：10BASE-T接続で送受信中 消灯　：有線LANが接続されていない。または接続先機器の電源が入っていない状態
③WLANランプ	緑点滅：無線LANアダプタとデータ送受信中 緑点灯：無線LANアダプタとリンクが確立した状態 橙点灯：無線LANアダプタとリンクが確立していない状態
④アンテナ端子	付属のアンテナを取り付けます。 ※本製品は技術基準に適合しています。付属のアンテナ以外を接続して使用すると、法律で罰せられることがあります。
⑤LANポート	LANケーブルを接続します。（設定用パソコンやハブ、ブロードバンドルータなどを接続します。）
⑥リセットスイッチ	本製品の設定を初期値に戻します。パスワードを忘れてしまった場合などに使用します。（【出荷時設定に戻す】70ページ参照）
⑦DC-IN	付属のACアダプタを接続します。

設定用パソコンの環境設定をする

本製品の設定をするための環境を作ります。

①設定準備する

本製品をパソコンに接続し、設定用パソコンの準備をします。

☞ 18ページ

▼

②IPアドレスを設定する

本製品の設定画面を起動するために、設定用パソコンのIPアドレスを設定します。

☞ 25ページ

▼

③Webブラウザを設定する

本製品の設定画面を起動するために、Webブラウザの設定を確認します。

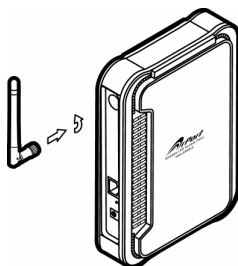
☞ 34ページ

①設定準備する

本製品をパソコンに接続し、設定用パソコンの準備をします。

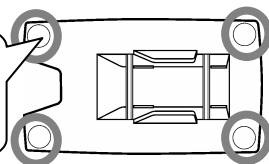
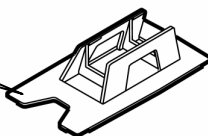
本製品を組み立てる

1　アンテナを取り付けます。

本製品背面のアンテナ端子に、添付のアンテナの根元を回して取り付けます。

2　本製品をスタンドに取り付けます。

①スタンド底面に添付のゴム足をつけます。

②スタンドに本製品を取り付けます。

①
ゴム足のシールをはがし、スタンド底面に４枚とも貼ってください。

②
背面側にスタンドの突起がくるように取り付けます。

本製品をパソコンに接続する

設定用パソコンの種類を確認します。

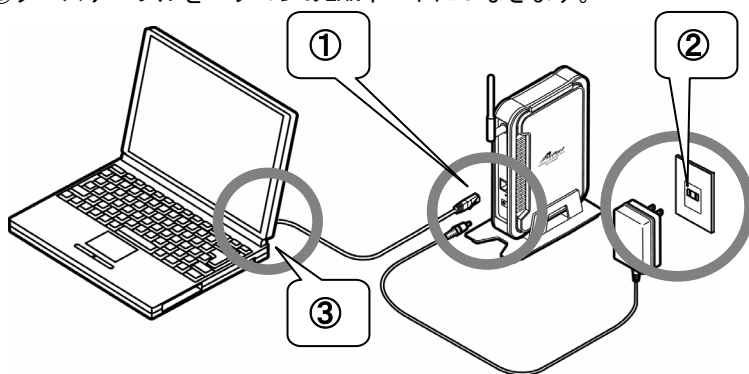
設定は、有線LAN接続または無線LAN接続のどちらからでも行えます。
設定時のトラブルを避けるため、有線LANから設定することをおすすめします。

有線LAN接続のパソコン	無線LAN接続のパソコン
下記へお進みください。	次ページへお進みください。

有線LAN接続のパソコンで設定する場合

添付のACアダプタとクロスケーブルを接続します。

①本製品にACアダプタと添付のクロスケーブルをつなぎます。
根元までしっかりと差し込んでください。
②ACアダプタをコンセントに接続します。
③クロスケーブルをパソコンのLANポートにつなぎます。

①
②
③

以上で取り付けは終了です。【②IPアドレスを設定する】（25ページ）へお進みください。

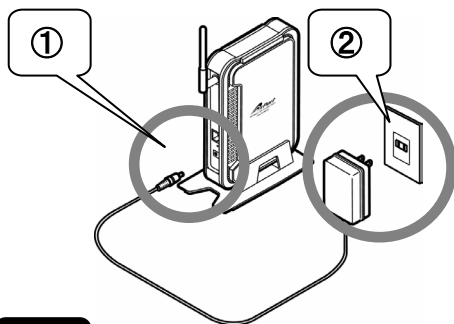
本製品をパソコンに接続する（つづき）

参考

LAN ケーブルを接続してから設定する場合は、無線 LAN の設定は必要ありません。【②IP アドレスを設定する】(25 ページ)へお進みください。

無線LAN接続のパソコンで設定する場合

1 添付のACアダプタを接続します。

①本製品にACアダプタをつなぎます。
　根元までしっかりと差し込んでください。
②ACアダプタをコンセントに接続します。

注意！

ADSL モデムやケーブルモデムの接続は本製品の設定がすべて終了した後に行ってください。

2 無線LANアダプタを設定します。

パソコン（無線LANアダプタ）側の設定を本製品の初期値（次ページ参照）と一致させます。設定方法は無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。
また、22ページ以降の手順を参考にしてください。

無線LANアダプタの設定が完了したら、【②IPアドレスを設定する】（25ページ）へお進みください。

本製品をパソコンに接続する（つづき）

《パソコン(無線LANアダプタ)側の設定内容》

項目	本製品の初期値	無線LANアダプタ側で設定する値
通信モード	Infrastructure	［Infrastructure］（インフラストラクチャ)に設定
SSID (ESS-ID)	default	［default］に設定
チャンネル	６ ch	設定の必要はありません。 ※インフラストラクチャモードで動作させる場合は、無線LANアダプタが本製品のチャンネルへ自動的に合わせるので設定の必要はありません。 ※弊社製無線LANアダプタの場合は、インフラストラクチャモードの場合、チャンネルを設定できない仕様となっています。
暗号キー (WEP Key)	無効	［無効］、「なし」に設定

次ページ以降は、無線LANアダプタ側の設定例です。

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例････････････････次ページ

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例

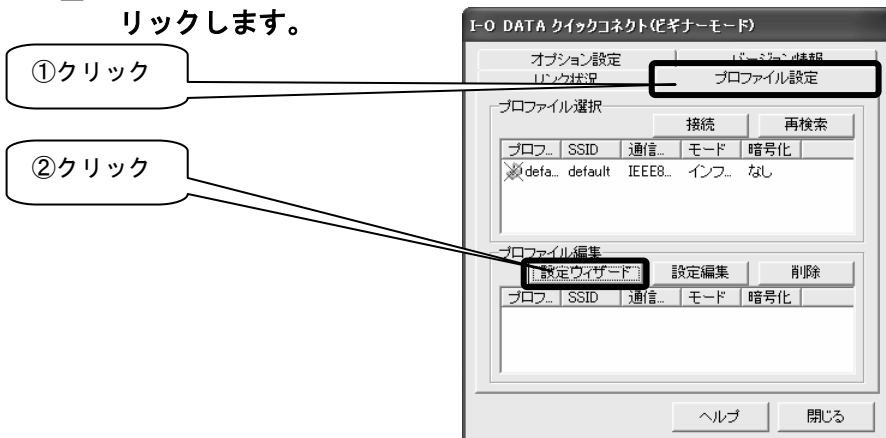
1 クイックコネクトを起動します。

［スタート］→［すべてのプログラム］（［プログラム］）→

［I-O DATA 無線LAN］→［クイックコネクト］を順にクリックします。

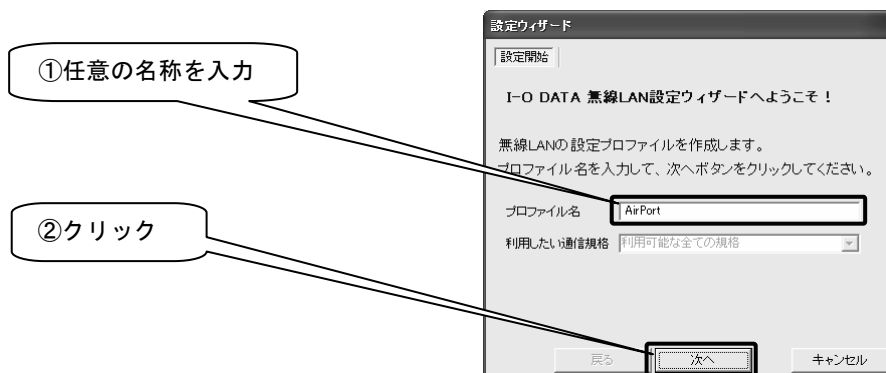
2 ［プロファイル設定］タブで、［設定ウィザード］ボタンをクリックします。

①クリック

②クリック

3 ［プロファイル名］を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

プロファイル名は半角文字100文字（全角文字50文字）までのお好きな名前を入力できます。

①任意の名称を入力

②クリック

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例(つづき)

4 接続先を選びます。

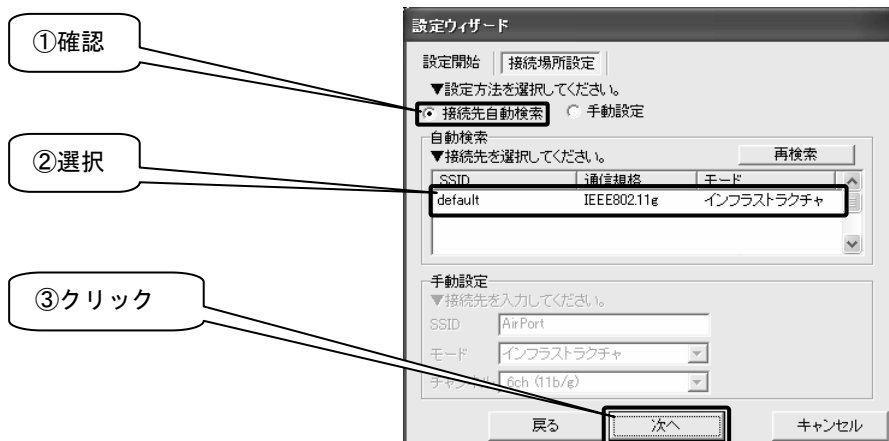
①[接続先自動検索]にチェックが付いていることを確認します。

②本製品のSSID（default）となっている接続先を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

①確認

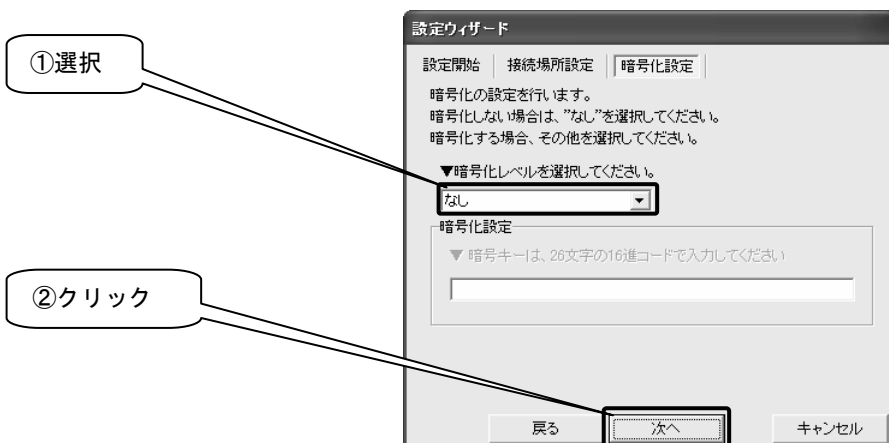
②選択

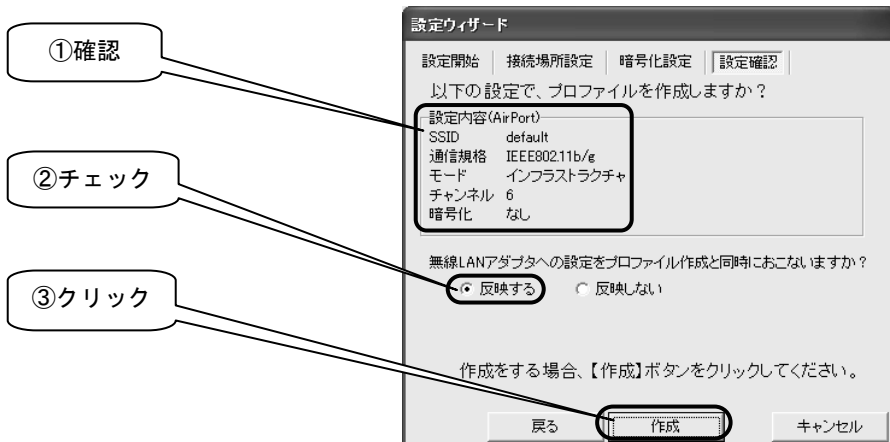
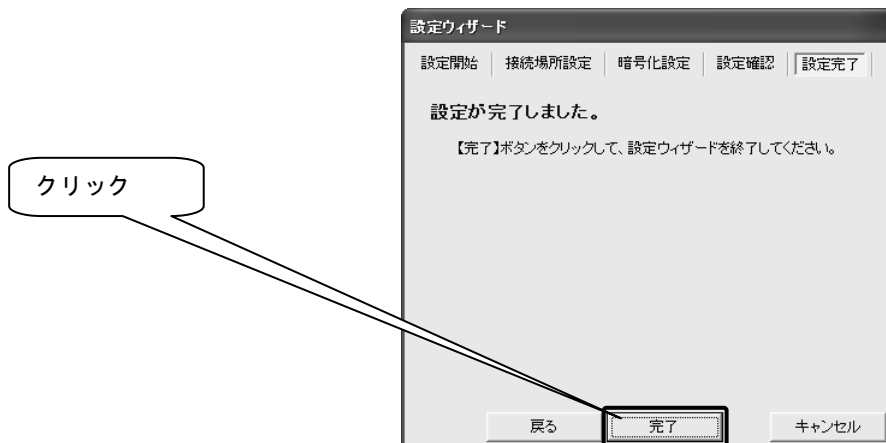
③クリック

5 暗号化設定をします。

①暗号化レベルで[なし]を選択します。

②[次へ]ボタンをクリックします。

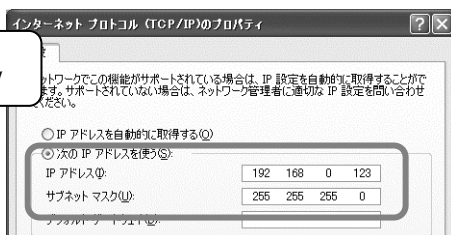
①選択

②クリック

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例(つづき)

6 設定内容を確認し、[反映する]にチェックを付けて、[作成]ボタンをクリックします。

7 [完了]ボタンをクリックします。

②IPアドレスを設定する

本製品の設定画面を起動するために、本製品を設定するパソコン（設定用パソコン）のIPアドレスを、本製品の初期値のクラスに合わせた設定にします。

IP アドレスを設定

Windows XPでの
IPアドレス設定画面例

設定用パソコンのIPアドレスの設定を行います。
設定はご使用のOSによって異なります。
以下の該当する個所へお進みください。

・ Windows XPをお使いの場合 → 次ページを参照してください。
・ Windows 2000をお使いの場合 → 29ページを参照してください。
・ Windows Me/98 SEをお使いの場合 → 32ページを参照してください。

Windows XP

1 管理者権限でWindows XPにログオンします。

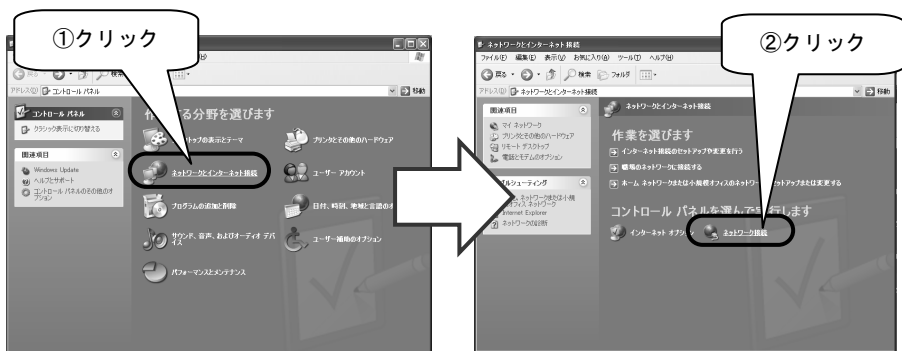
2 [スタート]ボタンをクリックし、現れたスタートメニューの中にある[コントロール パネル]をクリックします。

①クリック

②クリック

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックし、開いたウィンドウの中にある[ネットワーク接続]をクリックします。

①クリック

②クリック

Windows XP（つづき）

4 [ローカルエリア接続]（または[ワイヤレスネットワーク接続]）を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

①右クリック

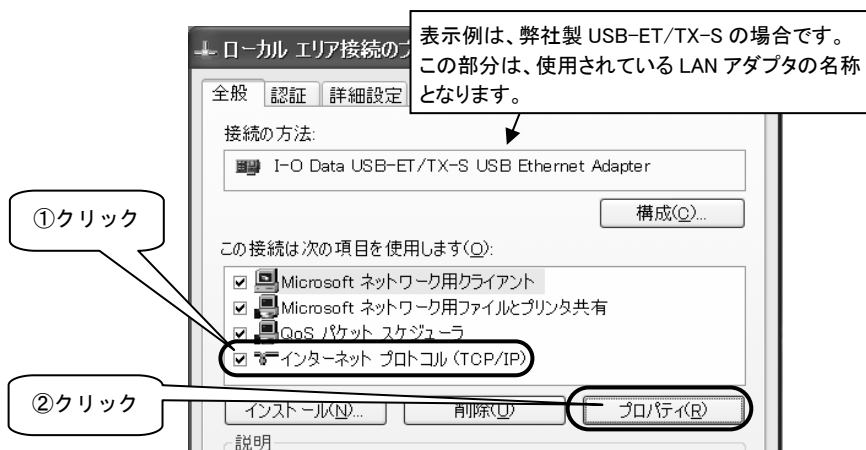
②クリック

ワイヤレスネットワークの場合はアイコンが異なります。

5 [インターネットプロトコル（TCP/IP）]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

表示例は、弊社製 USB-ET/TX-S の場合です。この部分は、使用されている LAN アダプタの名称となります。

①クリック

②クリック

Windows XP（つづき）

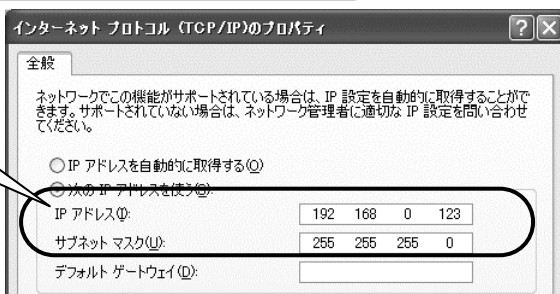
6 設定用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

設定用パソコンで本製品を設定するには、
設定用パソコンのIPアドレスが下記を
満たしている必要があります。

①が“192.168.0”である
（本製品のIPアドレスと同じクラスである）
②が“201”と異なる数である
（別のIPアドレスである）

本製品のIPアドレス
192.168.0 . 201
① ②
（出荷時）

ここを確認・設定

インターネット プロトコル (TCP/IP)のプロパティ
全般
ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。
○IP アドレスを自動的に取得する(O)
◉次の IP アドレスを使う(S):
IP アドレス(I): 192 168 0 123
サブネット マスク(U): 255 255 255 0
デフォルト ゲートウェイ(D):

「IP アドレスを自動的に取得する」に設定している場合

別のクラスの IP アドレス「172.xxx.xxx.xxx」などに設定している場合

本製品と同じ IP アドレス（「192.168.0.201」）に設定している場合

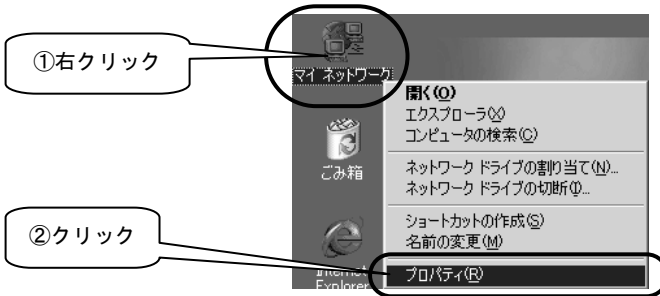
一時的に、パソコンの IP アドレスを「192.168.0.123」などの
同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに変更し［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。
※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

7 再起動の画面が表示された場合は、パソコンを再起動します。

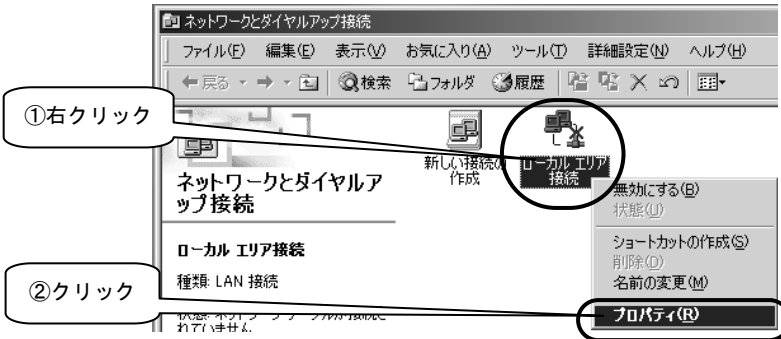
確認・設定後、【③Webブラウザを設定する】(34ページ)へお進みください。

Windows 2000

1 Administrators権限でWindows 2000にログオンします。

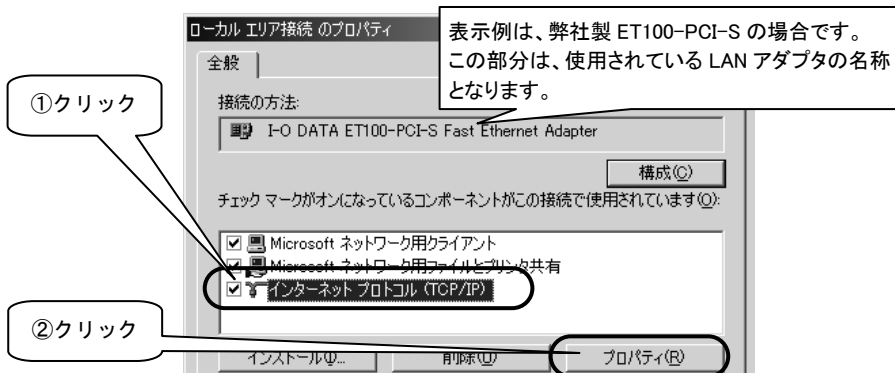
2 [マイ ネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

①右クリック
②クリック

3 [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニュー内の
[プロパティ]をクリックします。

①右クリック
②クリック

注意！

[ローカルエリア接続]が表示されない場合は、LAN アダプタの設定が正しく行われていません。ご使用の LAN アダプタメーカーへお問い合わせください。

Windows 2000（つづき）

4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

注意！

上記の表示以外に[NetBEUI プロトコル]や[IPX/SPX]の表示がある場合は、チェックを外してください。他のクライアントやサービスなどが表示されていても問題ありません。

Windows 2000（つづき）

5 設定用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

設定用パソコンで本製品を設定するには、
設定用パソコンのIPアドレスが下記を
満たしている必要があります。

①が“192.168.0”である
（本製品のIPアドレスと同じクラスである）
②が“201”と異なる数である
（別のIPアドレスである）

本製品のIPアドレス
192.168.0 . 201
① ②
（出荷時）

ここを確認・設定

パソコンのIPアドレスを「192.168.0.123」にした例です。

インターネット プロトコル (TCP/IP)のプロパティ
全般
IP アドレスを自動的に取得する(O)
次の IP アドレスを使う(S):
IP アドレス(I): 192 168 0 123
サブネット マスク(U): 255 255 255 0
デフォルト ゲートウェイ(D):

「IP アドレスを自動的に取得する」に設定している場合

別のクラスの IP アドレス「172.xxx.xxx.xxx」などに設定している場合

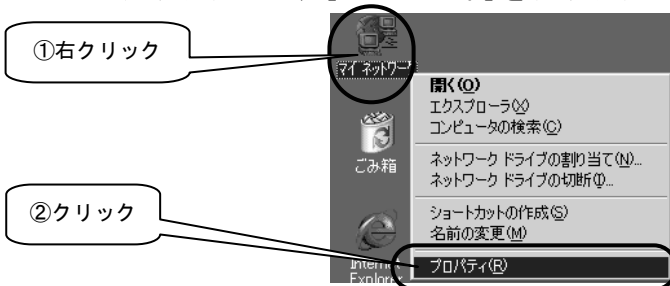
本製品と同じ IP アドレス（「192.168.0.201」）に設定している場合

→ パソコンの IP アドレスを一時的に、「192.168.0.123」などの同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに変更し［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。
※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

6 再起動の画面が表示された場合は、パソコンを再起動します。

確認・設定後、【③Webブラウザを設定する】(34ページ)へお進みください。

Windows Me/98 SE

1 [マイ ネットワーク]（ネットワークコンピュータ）を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。

2 [TCP/IP] をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。

※アダプタが複数ある場合は、[TCP/IP－>xxxxxxx] をクリックします。（xxxxxxxは本製品と接続しているLANアダプタ名）

注意！

他のクライアントやサービスなどが表示されていても問題ありません。

Windows Me/98 SE（つづき）

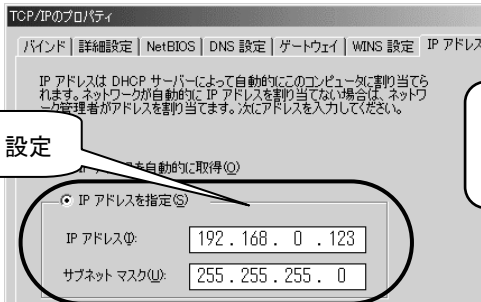
3 設定用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

設定用パソコンで本製品を設定するには、
設定用パソコンのIPアドレスが下記を
満たしている必要があります。

本製品のIPアドレス
192.168.0．201
①　②
（出荷時）

①が“192.168.0”である
（本製品のIPアドレスと同じクラスである）
②が“201”と異なる数である
（別のIPアドレスである）

TCP/IPのプロパティ
バインド｜詳細設定｜NetBIOS｜DNS 設定｜ゲートウェイ｜WINS 設定｜IP アドレス
IP アドレスは DHCP サーバーによって自動的にこのコンピュータに割り当てられます。ネットワークが自動的に IP アドレスを割り当てない場合は、ネットワーク管理者がアドレスを割り当てます。次にアドレスを入力してください。
IP アドレスを自動的に取得(O)
IP アドレスを指定(S)
IP アドレス(I): 192.168.0.123
サブネット マスク(U): 255.255.255.0

ここを確認・設定

パソコンのIPアドレスを「192.168.0.123」にした例です。

「IP アドレスを自動的に取得」に設定している場合

別のクラスの IP アドレス（「172.xxx.xxx.xxx」など）

本製品と同じ IP アドレス（「192.168.0.201」）に設定している場合

パソコンの IP アドレスを一時的に、「192.168.0.123」などの同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに変更し［OK］ボタンをクリック後、すべての画面を閉じてパソコンを一度、再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

4 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを一度再起動します。

確認・設定後、【③Webブラウザを設定する】（34ページ）へお進みください。

③Webブラウザを設定する

本製品を設定するには、Web ブラウザの接続設定をしておく必要があります。下記２点に注意し設定してください。

①LANを使用してインターネットに接続する。

②プロキシサーバーを設定する。

Webブラウザの接続設定

注意！

Internet Explorer バージョン 5.0 以上をご用意ください。Web ブラウザがない、あるいはWeb ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず必要なバージョン以降をご用意ください。

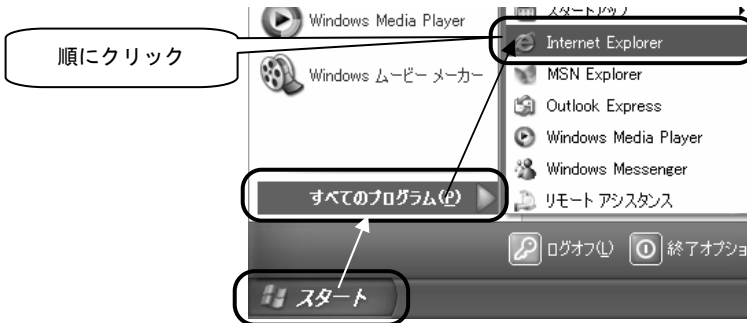
注意！

プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

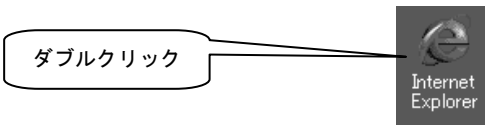
1 [Internet Explorer]画面を表示させます。

・Windows XPの場合

[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer](または[インターネット Internet Explorer])をクリックします。

順にクリック

・Windows 2000、Windows Me/98 SEの場合

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。

ダブルクリック

注意！

この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。

2 [Internet Explorer]画面の[ツール]メニューの[インターネットオプション]をクリックします。

※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

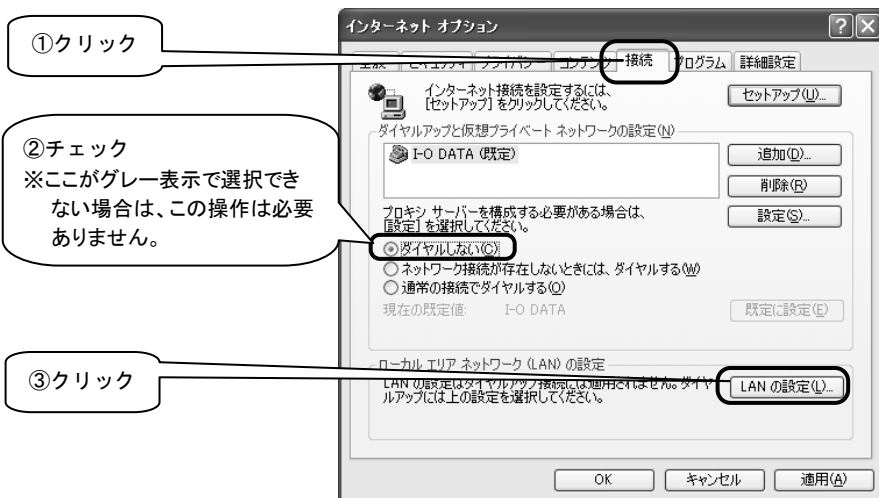
①クリック

②クリック

3 [接続]タブをクリックし、[ダイヤルしない]をチェックします。続けて、[LANの設定]ボタンをクリックします。

①クリック

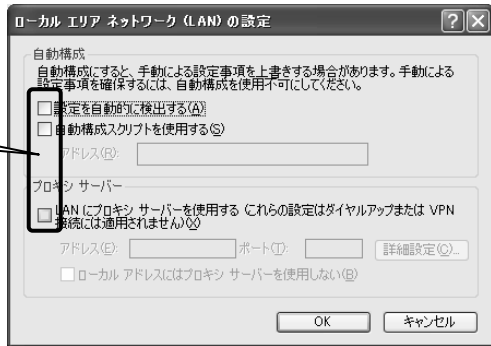
②チェック
※ここがグレー表示で選択できない場合は、この操作は必要ありません。

③クリック

4 プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、次ページの設定を行います。

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がない場合

すべての項目のチェックを外す

ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定

自動構成
自動構成にすると、手動による設定事項を上書きする場合があります。手動による設定事項を確保するには、自動構成を使用不可にしてください。
設定を自動的に検出する(A)
自動構成スクリプトを使用する(S)
アドレス(R):
プロキシ サーバー
LAN にプロキシ サーバーを使用する (これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません)(X)
アドレス(E): ポート(T): 詳細設定(C)...
ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない(B)
OK キャンセル

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がある場合

①チェックを外す

②チェックを入れる

③プロバイダの指示に従って設定する

④クリック

⑤本製品の IP アドレス（出荷時の場合は 192.168.0.201）を入力

すでに他の IP アドレスを設定している場合は、;192.168.0.201 のように前に ;(セミコロン)を付けてください。

⑥クリック

ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定

自動構成
自動構成にすると、手動による設定事項を上書きする場合があります。手動による設定事項を確保するには、自動構成を使用不可にしてください。
設定を自動的に検出する(A)
自動構成スクリプトを使用する(S)
アドレス(R):
プロキシ サーバー
LAN にプロキシ サーバーを使用する (これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません)(X)
アドレス(E): xxx.xxx.xxx.xxx ポート(T): 80 詳細設定(C)...
ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない(B)
OK キャンセル

プロキシの設定

サーバー

種類	使用するプロキシのアドレス	ポート
HTTP(H):	xxx.xxx.xxx.xxx	80
Secure(S):	xxx.xxx.xxx.xxx	80
FTP(F):	xxx.xxx.xxx.xxx	80
Gopher(G):	xxx.xxx.xxx.xxx	80
Socks(C):		

すべてのプロトコルに同じプロキシ サーバーを使用する(U)

例外
次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N):
192.168.0.201
セミコロン (;) を使用してエントリを分けてください。
OK キャンセル

5 ［ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定］画面で
[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

6 ［インターネット オプション］（または［インターネットのオプション］）画面へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

【アクセスポイントを設定する】（39ページ）へお進みください。

アクセスポイントを設定する

アクセスポイント（本製品）の設定します。

①アクセスポイントの設定を決める

本製品のアクセスポイント設定を決めます。

☞ 40ページ

▼

②アクセスポイントを設定する

アクセスポイントの設定をします。

☞ 41ページ

①アクセスポイントの設定を決める

アクセスポイント（本製品）で設定する無線LAN設定を決めてください。

設定内容を記入してください

1 本製品のSSID（ESSID）を決めます。

半角英数32文字まで（大/小文字の区別あり）で、お好きな名前を付けてください。（初期値：default）

▼決めたSSID（ESSID）を記入してください。

SS ID(ESSID)	

2 本製品のWEP(暗号化)設定を決めます。

各項目については、48ページをご覧ください。

▼暗号化する場合は、決めた暗号化設定を記入してください。

認証方式		Open System		Shared Key	
暗号キー		64bit(40bit)		128bit(104bit)	
キー	キー1				
	キー2				
	キー2				
	キー3				
デフォルトキー		1	2	3	4

参考

●SSIDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SSIDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SSIDがESSIDと記載されている場合もあります。

設定を決定したら、次ページへお進みください。

②アクセスポイントを設定する

アクセスポイントの設定をします。設定内容は本製品に保存されます。

設定画面を起動する

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。

http://192.168.0.201/

※工場出荷時の本製品のIPアドレスです。

http://192.168.0.201/
を入力し、
［Enter］キーを押す

サーバーが見つかりません - Mic
ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　お気
戻る
アドレス(D)　http://192.168.0.201/

注意！

上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。
設定用パソコンと本製品が接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、［ログイン］ボタンをクリックします。

システムパスワード	空白　（何も入力する必要はありません。） ※工場出荷時は未設定です。

■ アクセスポイント名： GAP3E7000
I-O DATA WN-G54/AXP WEB設定画面へようこそ
ログインするためにはシステムパスワードを入力し「ログイン」ボタンをクリックしてください。
システムパスワード：　ログイン

①入力しない

②クリック

画面が表示されない！

【設定用パソコンの環境設定をする】（17 ページ）で IP アドレスの設定などをご確認ください。

設定画面を起動する（つづき）

参考

パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。パスワードは出荷時は[空白]ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法は、60 ページをご覧ください。

3 設定画面が表示されます。

I-O DATA
2.4GHz Wireless LAN Access Point
AirPort
WN-G54/AXP

■ アクセスポイント名 ： GAP3E7000

I-O DATA WN-G54/AXP WEB設定画面へようこそ

まずはじめに 基本設定 でアクセスポイントの基本設定を行ってください。
機器情報 でアクセスポイントの情報を表示することができます。

設定メニュー
- 基本設定
- パスワードの変更
- WEP
- 接続制限
- 高度な設定
- 初期設定に戻す
- ファームウェア更新

ステータスメニュー
- クライアント一覧
- 機器情報

- ログアウト

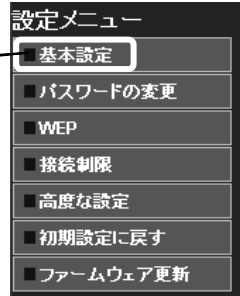
次に、次ページ以降でSSIDの設定を行います。

アクセスポイントのSSIDを設定する

【①アクセスポイントの設定を決める】（40ページ）で決めたSSIDの設定をします。

1 設定画面の[基本設定]をクリックします。

クリック

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

2 40ページで決めた[SSID]を入力し、[設定]ボタンをクリックします。

基本設定

①入力

アクセスポイント名：GAP3E7000
IPアドレスの設定方法：手動で設定する　DHCPで取得する
IPアドレス：192.168.0.201
サブネット マスク：255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ：0.0.0.0
SSID：default
チャンネル：6ch (2.437GHz)
転送速度：Auto

②クリック

設定

アクセスポイントのSSIDを設定する（つづき）

3 **以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。**

無線LANから設定した場合は、SSIDを変更したため通信は途絶えます。

クリック

基本設定

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

再起動中...

しばらくお待ちください

4 **本製品の再起動後、パスワードの入力画面に戻ります。**

ここで、設定画面は終了できます。

■ アクセスポイント名 : GAP3E7000

I-O DATA WN-G54/AXP WEB設定画面へようこそ

ログインするためにはシステムパスワードを入力し「ログイン」ボタンをクリックしてください。

システムパスワード : ログイン

5 **各無線LANアダプタの設定を、40ページで決めた[SSID]にあわせます。**

設定方法は、各無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上でSSIDの設定は終了です。
これで無線通信はできる状態ですが、セキュリティのため暗号化設定を行うことをおすすめします。詳しくは、【暗号化する】（46ページ）をご覧ください。

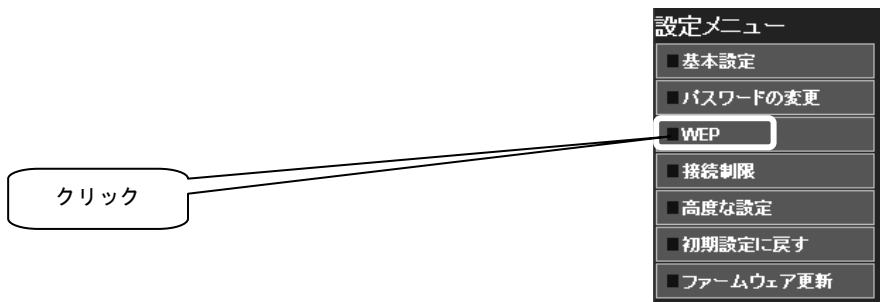
他の設定をする

暗号化する

【①アクセスポイントの設定を決める】（40ページ）で決めた暗号化設定をします。

1　設定画面の[WEP]をクリックします。

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

クリック

注意！

暗号化を行う場合、暗号化して通信するすべてのパソコンで設定が必要です。

アクセスポイントの暗号化設定をする（つづき）

2 40ページで決めた暗号化(WEP)を入力します。

※本手順では、パスフレーズは使用しません。各項目については次ページの表をご覧ください。

①[認証方式]を選択します。（通常、変更する必要はありません。）

②[WEP]の[有効]にチェックをつけます。

③[暗号化レベル]を選択します。

④40ページで決めた[キー1～4]を入力します。

⑤[デフォルトキー]を選択します。（通常は１）

⑥[設定]ボタンをクリックします。

①選択
②チェック
③選択
④入力
⑤選択
⑥クリック

WEP
認証方式： Open System Shared Key
WEP： 有効 無効
暗号化レベル： 128 bit
暗号キー (16進数 0-9、A-F)
パスフレーズ： 作成
キー1： **************************
キー2： **************************
キー3： **************************
キー4： **************************
デフォルトキー： 1 2 3 4
設定

アクセスポイントの暗号化設定をする（つづき）

参考

●[WEP]画面各項目について

項目	設定内容
認証方式	Open System…開放型認証方式 Shared Key …共有型認証方式
WEP	有効…暗号化します。暗号キーの設定を行ってください。 無効…暗号化しません。
暗号化レベル	64bit…64bit(40bit)の暗号化をします。 128bit…128bit(104bit)の暗号化をします。
パスフレーズ	任意の文字列を入力して、[作成]ボタンをクリックすると、暗号キーを自動で作成します。（本手順では、キー１～４へ直接キーを入力する方法を説明しています。）
キー１～４	16進数（0～9またはA～Fの文字列）で暗号キーを入力します。（64bit：10文字、128bit：26文字）
デフォルトトキー	暗号化で使用するキーを選びます。（通常は１）

※ServicePack１にアップグレードしていないWindows XPでは、[暗号化レベル]と[キー１～4]の表記が、弊社Web設定の標記と異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。
40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット
キー0=キー1、キー1=キー2、キー2=キー3、キー3=キー4

アクセスポイントの暗号化設定をする（つづき）

3 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

無線LANから設定した場合は、WEPを変更したため通信は途絶えます。

クリック

WEP

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

再起動中...

しばらくお待ちください

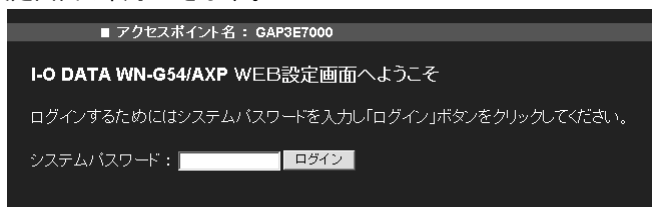
4 本製品の再起動後、パスワードの入力画面に戻ります。

ここで、設定画面は終了できます。

■ アクセスポイント名 ： GAP3E7000

I-O DATA WN-G54/AXP WEB設定画面へようこそ

ログインするためにはシステムパスワードを入力し「ログイン」ボタンをクリックしてください。

システムパスワード： ログイン

5 各無線LANアダプタの設定を、40ページで決めた[WEP]にあわせます。

設定方法は、各無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で設定は終了です。

アクセスポイントの暗号化設定をする（つづき）

参考

●暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含むWN-G54シリーズでは暗号キーとして主に16進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、［64bit共有キー］の場合は５文字、［128bit共有キー］の場合は13文字の英数字・記号（ASCII文字）で暗号キーを指定する方式や、文字列から16進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の［64bit共有キー］の場合は５文字、［128bit共有キー］の場合は13文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。WN-G54シリーズや16進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。各文字と 16進コードの対応については下記の表を参照してください。

〈例〉 64bit共有キーで［WNG54］と設定している場合、
16進コードでは［57 4e 47 35 34］となります。

文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進
!	21	0	30	?	3f	N	4e	]	5d	l	6c	{	7b
″	22	1	31	@	40	O	4f	^	5e	m	6d	｜	7c
#	23	2	32	A	41	P	50	_	5f	n	6e	}	7d
$	24	3	33	B	42	Q	51	`	60	o	6f	~	7e
%	25	4	34	C	43	R	52	a	61	p	70		
&	26	5	35	D	44	S	53	b	62	q	71		
’	27	6	36	E	45	T	54	c	63	r	72		
(	28	7	37	F	46	U	55	d	64	s	73		
)	29	8	38	G	47	V	56	e	65	t	74		
*	2a	9	39	H	48	W	57	f	66	u	75		
+	2b	:	3a	I	49	X	58	g	67	v	76		
,	2c	;	3b	＜	3c	K	4b	Y	59	h	68	w	77
-	2d	＜	3c	K	4b	Z	5a	i	69	x	78		
.	2e	=	3d	L	4c	[	5b	j	6a	y	79		
/	2f	＞	3e	M	4d	¥	5c	k	6b	z	7a		

本製品のIPアドレスを変更する

本製品のIPアドレスを変更する方法を説明します。

任意の値に手動で設定する

1 設定画面の[基本設定]をクリックします。

クリック

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

2 IPアドレスを設定します。

①[手動で設定する]にチェックを付けます。

②[IPアドレス][サブネットマスク]を設定します。

基本設定

①チェック

②設定

アクセスポイント名：GAP3E7000
IPアドレスの設定方法：手動で設定する　DHCPで取得する
IPアドレス：192 . 168 . 0 . 201　192.168.0.201
サブネットマスク：255 . 255 . 255 . 0　255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ：0 . 0 . 0 . 0　0.0.0.0
2.4 GHz
SSID：default
チャンネル：6ch (2.437GHz)
転送速度：Auto
設定

参考

[デフォルトゲートウェイ]はネットワークで定められた値を入力してください。(例：ブロードバンドルータの IP アドレス)

任意の値に手動で設定する（つづき）

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

クリック

設定

4 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

クリック

基本設定

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

再起動中...

しばらくお待ちください

以上で設定は終了です。

注意！

本製品の IP アドレスを変更すると、Web 設定画面を開くためのアドレスも変わります。

ネットワーク内のDHCPサーバから自動取得する

1 設定画面の[基本設定]をクリックします。

クリック

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

2 [DHCPで取得する]にチェックを付けます。

基本設定

チェック

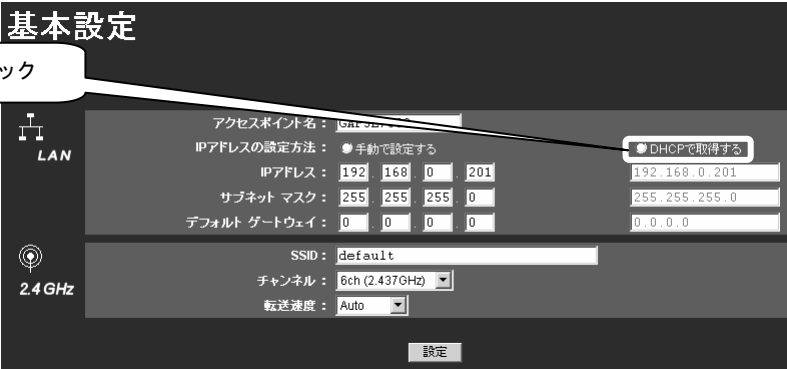
LAN
アクセスポイント名：
IPアドレスの設定方法：　手動で設定する　DHCPで取得する
IPアドレス：192.168.0.201　192.168.0.201
サブネット マスク：255.255.255.0　255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ：0.0.0.0　0.0.0.0

2.4GHz
SSID：default
チャンネル：6ch (2.437GHz)
転送速度：Auto

設定

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

クリック

設定

ネットワーク内のDHCPサーバから自動取得する（つづき）

4 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。

注意！

■ルータのDHCPサーバよりIPアドレスを取得できますが、ルータの機種によっては、IPアドレスを取得できない場合もあります。取得できない場合は、本製品のIPアドレスを、DHCPサーバが割り当てるIPアドレスと同一クラスでDHCPサーバが割り当てるIPアドレスの範囲外に設定してください。

■IPアドレスをDHCPサーバから自動取得する場合は、DHCPサーバの設定時に本製品のIPアドレスを予約するようおすすめします。
「IPアドレスを自動的に設定する」にした場合は、本製品のIPアドレスは変化するため分からなくなります。そのため、DHCPサーバの中にはIPアドレスの予約ができるもの（例：Windows 2000やNTサーバ）では、DHCPサーバの設定時に本製品のIPアドレスを予約してください。

■DHCPサーバより本製品のIPアドレスを取得する場合は、必ずパソコンより先に本製品の電源を入れた状態にしておいてください。

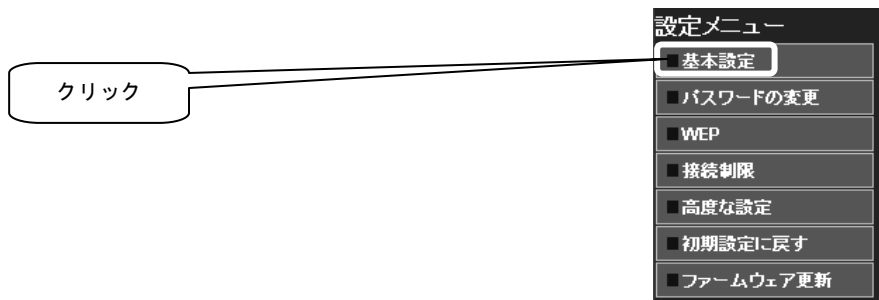
■本設定を行った場合は、本製品の設定画面を開く際に、DHCPサーバから取得しているIPアドレスを確認し、そのIPアドレスを入力する必要があります。

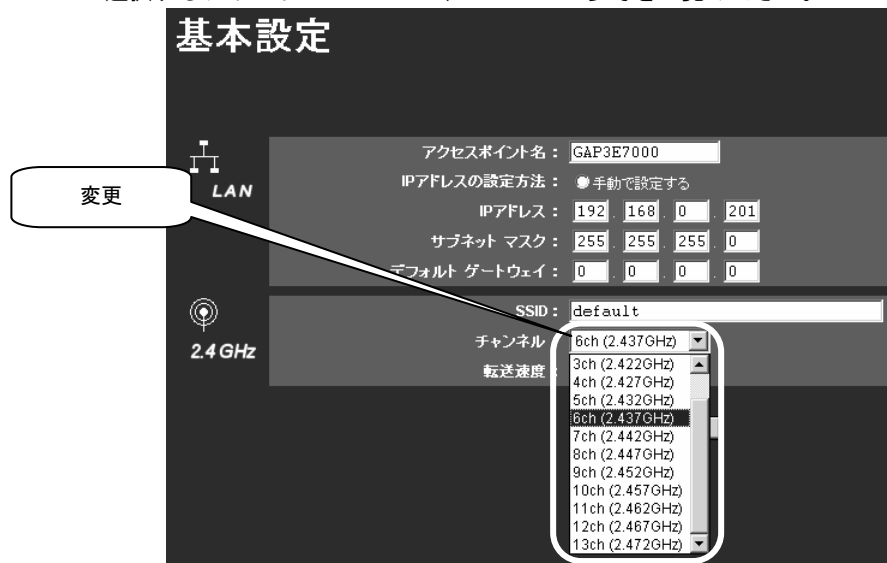
チャンネルを変更する

本製品が使用する無線チャンネルを変更することができます。
通常は変更する必要はありません。

1 設定画面の[基本設定]をクリックします。

クリック

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

2 [チャンネル]を変更します。

選択するチャンネルについては、57ページの参考をご覧ください。

基本設定

変更

LAN
アクセスポイント名：GAP3E7000
IPアドレスの設定方法：手動で設定する
IPアドレス：192.168.0.201
サブネット マスク：255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ：0.0.0.0

2.4 GHz
SSID：default
チャンネル 6ch (2.437GHz)
転送速度

3ch (2.422GHz)
4ch (2.427GHz)
5ch (2.432GHz)
6ch (2.437GHz)
7ch (2.442GHz)
8ch (2.447GHz)
9ch (2.452GHz)
10ch (2.457GHz)
11ch (2.462GHz)
12ch (2.467GHz)
13ch (2.472GHz)

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

クリック

設定

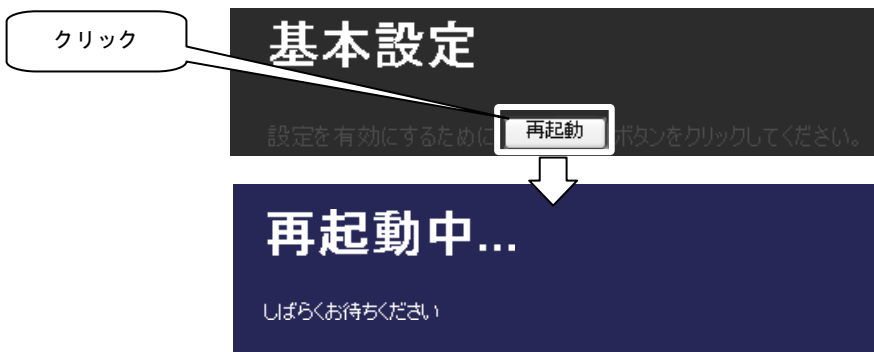
4 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

クリック

基本設定

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

再起動中...

しばらくお待ちください

以上で設定は終了です。

参考

●選択するチャンネルについて

2.4GHz 帯の無線では 1～13 ch まで選択できます。(一部製品では 1～14 ch まで)
アクセスポイントを 1 台のみ使用する場合は、どのチャンネルを使用しても問題ありませんが、複数台のアクセスポイントを使用する場合、隣り合ったチャンネルは、電波の帯域が重なるため通信にロスを生じます。
電波到達範囲内で複数台のアクセスポイントを使用する場合は、次ページの表をご覧になり、帯域が重ならないように設定することをおすすめします。
例) 本製品を 3 台使用する場合は、それぞれ 1,6,11 チャンネルに設定

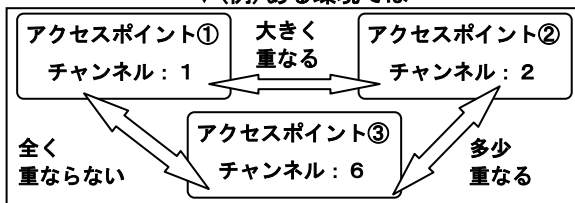
▼無線LANチャンネル一覧
(例：１チャンネルの場合、2401～2423MHzの帯域を使用します。)

チャンネル	帯域 (MHz)
1チャンネル	2401 ～ 2423
2チャンネル	2406 ～ 2428
3チャンネル	2411 ～ 2433
4チャンネル	2416 ～ 2438
5チャンネル	2421 ～ 2443
6チャンネル	2426 ～ 2448
7チャンネル	2431 ～ 2453
8チャンネル	2436 ～ 2458
9チャンネル	2441 ～ 2463
10チャンネル	2446 ～ 2468
11チャンネル	2451 ～ 2473
12チャンネル	2456 ～ 2478
13チャンネル	2461 ～ 2483
14チャンネル	2473 ～ 2495

▲一部製品で使用可能

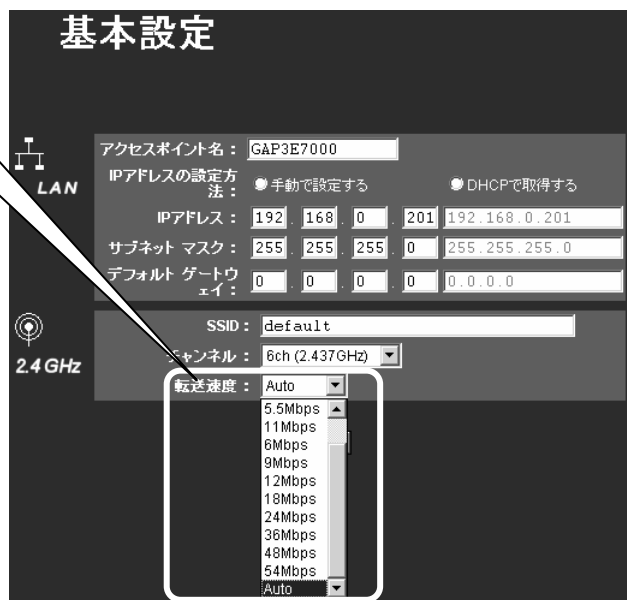
2400MHz　ISMバンド (Industrial,Science,and Medical Band)　2497MHz

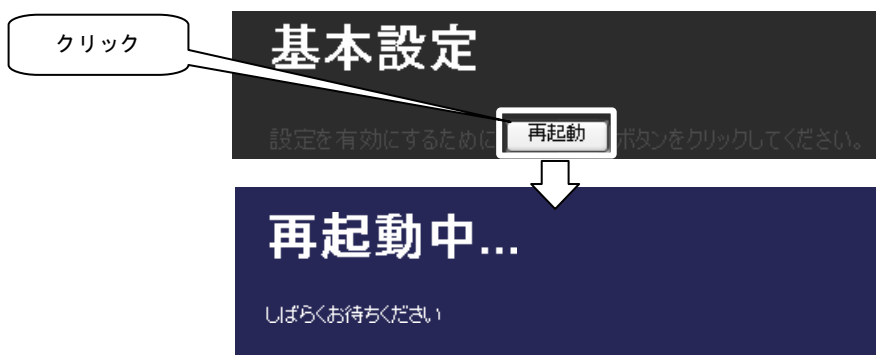
▼(例)ある環境では

アクセスポイント①
チャンネル：１
大きく
重なる
アクセスポイント②
チャンネル：２
アクセスポイント③
チャンネル：６
全く
重ならない
多少
重なる

転送速度を選ぶ

本製品の送信速度を変更する方法を説明します。（通常はAutoのまま変更する必要はありません。）

1 設定画面の[基本設定]をクリックします。

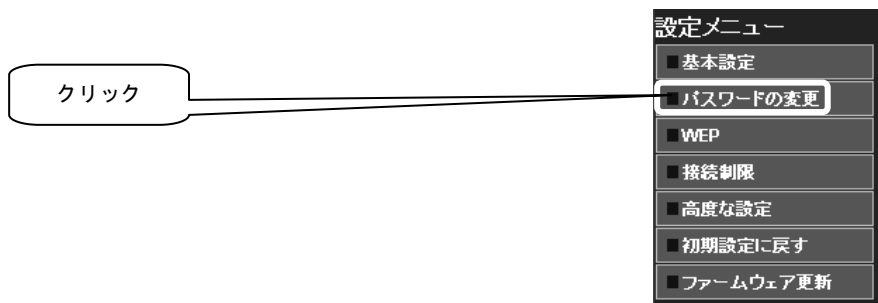
2 [転送速度]を選択します。

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

4 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

以上で設定は終了です。

パスワードを変更する

本製品を設定する管理者を特定するため、パスワードを設定できます。

1 設定画面の[パスワードの変更]をクリックします。

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

クリック

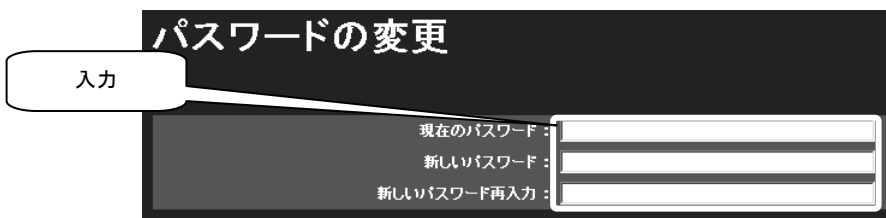
2 パスワードを設定します。

①[現在のパスワード]に現在のパスワードを入力します。
32文字までの英数半角文字で入力します。（大/小文字の区別あり）
出荷時：空白（パスワードは設定されていません。）
②[新しいパスワード]に新パスワードを入力します。
③[新しいパスワード再入力]に新パスワードを再度入力します。

パスワードの変更
現在のパスワード：
新しいパスワード：
新しいパスワード再入力：

入力

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

設定

クリック

以上でパスワードは変更されました。

MACアドレス接続制限をする

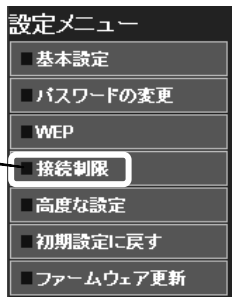
本製品へ接続可能な無線アダプタを、MACアドレスで指定して接続制限することができます。これにより不正なアクセスを防止することができます。

注意！

本製品のLANポートと有線接続したパソコンから設定してください。

1 設定画面の[接続制限]をクリックします。

クリック

設定メニュー
- 基本設定
- パスワードの変更
- WEP
- 接続制限
- 高度な設定
- 初期設定に戻す
- ファームウェア更新

2 これから登録するMACアドレスの接続の許可/拒否を選び、[設定]ボタンをクリックします。

[リストの機器のみ許可する]にチェックをつけると、[MACアドレスリスト]に登録したMACアドレスのみ、本製品に接続できます。
[リストの機器を拒否する]にチェックをつけると、[MACアドレスリスト]に登録したMACアドレスは、本製品に接続できません。

①選択
②クリック

MACアドレス接続制限

MACアドレス接続制限：
- 無効
- リストの機器のみ許可する
- リストの機器を拒否する

設定

MACアドレス：　追加

MACアドレス リスト

3 MACアドレスを入力し、[追加]ボタンをクリックします。

半角英数文字で入力します。256台まで登録できます。

①入力

②クリック

MACアドレス接続制限

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

MACアドレス接続制限： 無効 / リストの機器のみ許可する / リストの機器を拒否する

設定

MACアドレス： 00 : A0 : B0 : xx : xx : xx 追加

MACアドレス リスト

（全てのMACアドレスを拒否します）

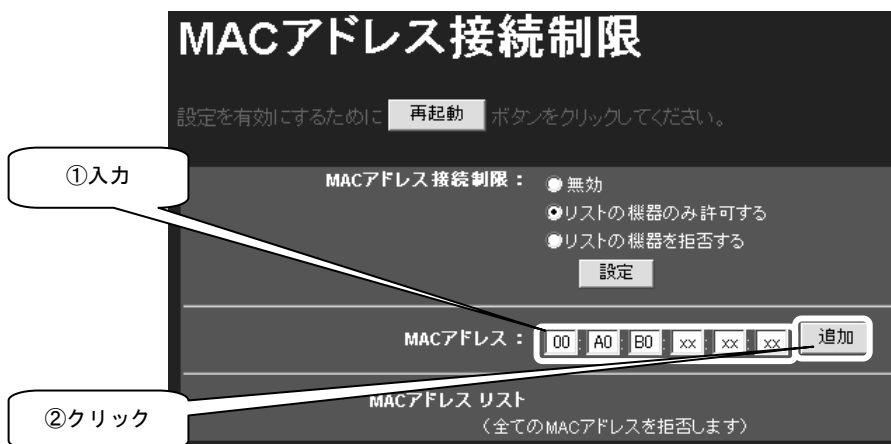
4 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

クリック

MACアドレス接続制限

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

再起動中...

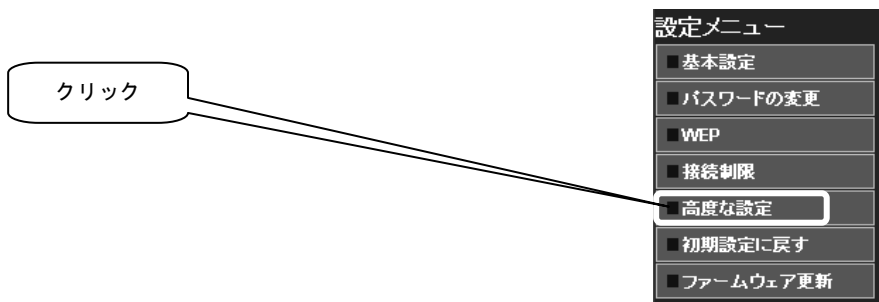
しばらくお待ちください

以上で設定は終了です。

高度な設定をする

高度な設定について説明します。通常は変更する必要はありません。

1 設定画面の[高度な設定]をクリックします。

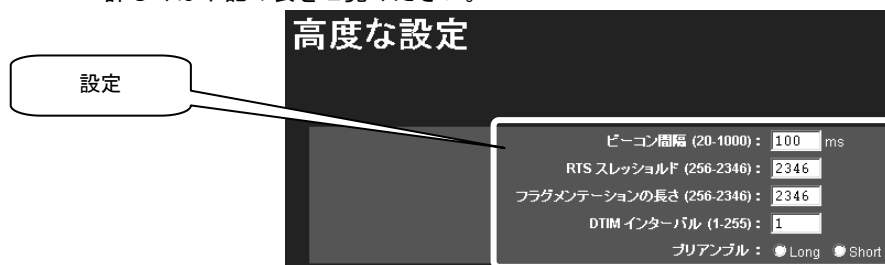
クリック

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

2 高度な設定をします。

詳しくは下記の表をご覧ください。

設定

高度な設定

ビーコン間隔 (20-1000) : 100 ms
RTS スレッショルド (256-2346) : 2346
フラグメンテーションの長さ (256-2346) : 2346
DTIM インターバル (1-255) : 1
プリアンブル : Long Short

機能	説明
ビーコン間隔	**ビーコンの間隔を20ms～1000msで設定します。** ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。
RTSスレッショルド	**RTSパケットのサイズを256～2346で設定します。** アクセスポイントは実際のデータを送信する前に、RTS(送信要求)パケットを送信して、データを送信して良いか確認しています。電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、頻繁にRTSパケットが送出されるので、一般にスループットは低下します。
フラグメンテーションの長さ	**パケットが断片化される時のパケットサイズを256～2346(偶数のみ)で設定します。** 電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、一般にスループットは低下します。

機能	説明
DTIMインターバル	**ビーコンに対し、どの程度の間隔でDTIMを挿入するかを1～255の間隔で設定します。** DTIM（delivery traffic indication message）とは省電力モードの無線クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。DTIMはビーコンに含まれて送信されています。 例えば“2”と設定すると、DTIMが含まれたビーコンと含まれていないビーコンが交互にアクセスポイントから送信されるようになります。
プリアンブル	**Long…通常はこちらを設定してください。** **Short…プリアンブルの長さが短くなり、無線ネットワークのスループットが向上します。ただし、短いプリアンブルに対応していない製品で問題が起こる場合があります。** プリアンブルとはパケットの先頭に付加されるビット情報のことで、アクセスポイントと無線クライアントの通信において使われています。

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

クリック

設定

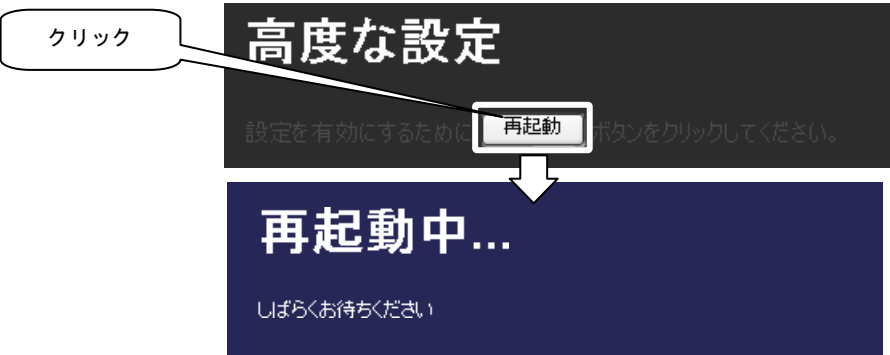
4 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

クリック

高度な設定

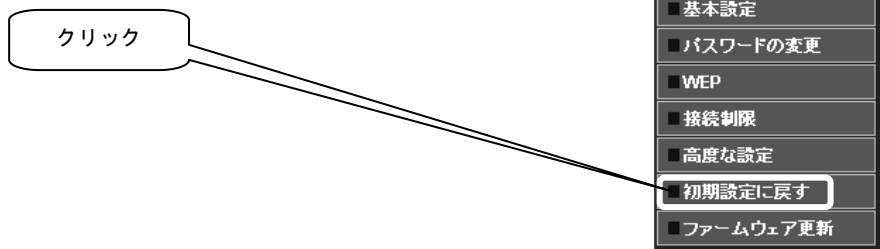
設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

再起動中...

しばらくお待ちください

以上で設定が変更されました。

初期設定に戻す

本製品の設定を出荷時状態に戻します。初期値については【●本製品の初期値（出荷時状態）】（82ページ）をご覧ください。

1 設定画面の[初期設定に戻す]をクリックします。

2 [はい]にチェックを付けます。

3 設定が終了したら、画面下の[設定]ボタンをクリックします。

4 **以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。**

初期設定に戻す

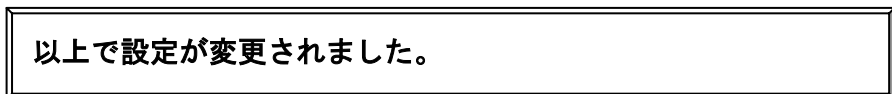
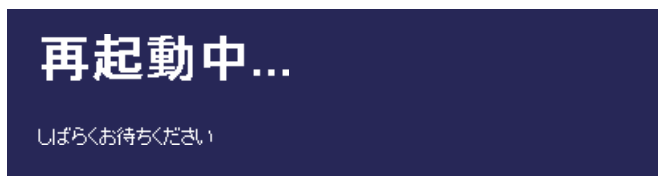
設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

クリック

初期設定に戻す：初期化されました。

再起動中...

しばらくお待ちください

以上で設定が変更されました。

ファームウェアを更新する

注意！

ファームウェアの更新は、本製品のLANポートに有線接続したパソコンから行ってください。

1 弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/lib/）で最新のファームウェアを入手します。

2 設定画面の[ファームウェア更新]をクリックします。

クリック

設定メニュー
■基本設定
■パスワードの変更
■WEP
■接続制限
■高度な設定
■初期設定に戻す
■ファームウェア更新

3 ファームウェア更新の[参照]ボタンをクリックし、1で入手したファームウェアを選択し、[更新]ボタンをクリックします。

本製品(WN-G54/AXP)以外のファームウェアを選ばないでください。

①クリック

②クリック

ファームウェア更新

ファイルの選択：　参照...

更新

4 以下の画面が表示されます。この間、本製品の電源を絶対に切らないでください。

ファームウェアの書き込み中...

処理が終了するまでしばらく(約30秒)お待ちください。

5 以下の画面が表示されますので、[再起動]ボタンをクリックします。

新しいファームウェアが書き込まれました。

設定を有効にするために 再起動 ボタンをクリックしてください。

クリック

再起動中...

しばらくお待ちください

以上で設定は終了です。

その他

出荷時設定に戻す

パスワードを忘れてしまったときなどに、本製品の設定を出荷時設定に戻します。（初期化）

☞ 70ページ

TCP/IPの基礎知識

本製品を設定するときに必要なTCP/IPについて説明します。

☞ 71ページ

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

☞ 74ページ

用語解説

用語について説明します。

☞ 78ページ

仕様

本製品の仕様です。

☞ 81ページ

出荷時設定に戻す

本製品のIPアドレスを忘れてしまったときなどに、本製品を出荷時設定に戻します。

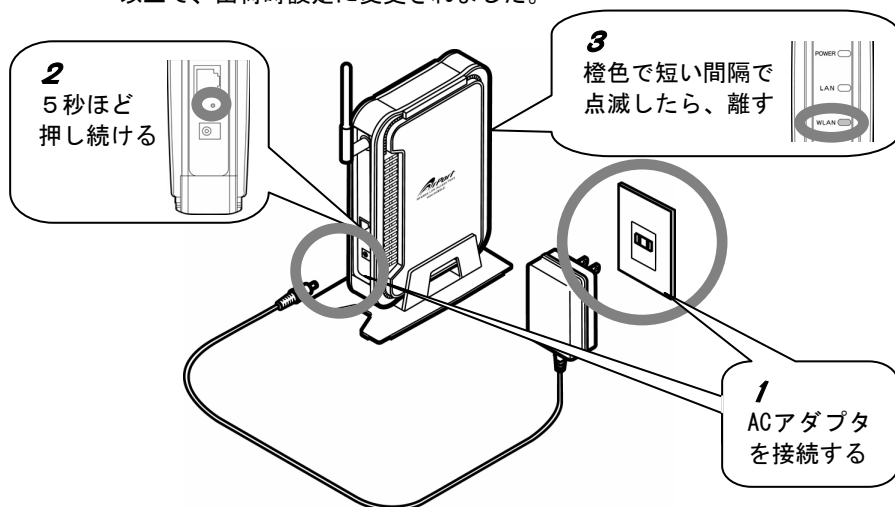
注意！

以下の手順を行うと、設定内容はすべて出荷時設定に戻ります。

●リセットスイッチで戻す

1. ACアダプタを接続し、POWERランプとWLANランプが点灯することを確認します。

2. 細いピンなどでリセットスイッチを5秒ほど押し続けます。

3. WLANランプが橙色で短い間隔で点滅したら、リセットスイッチを離します。
   →WLANランプが消灯し、本製品が再起動します。
   以上で、出荷時設定に変更されました。

●Web設定画面で戻す

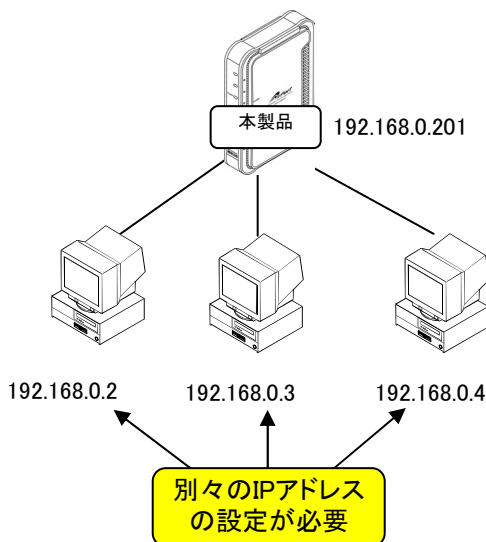
Web設定画面で行います。詳しくは、【初期設定に戻す】65ページをご覧ください。

TCP/IPの基礎知識

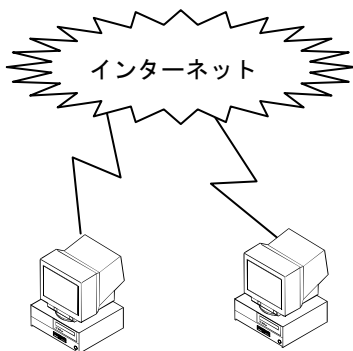
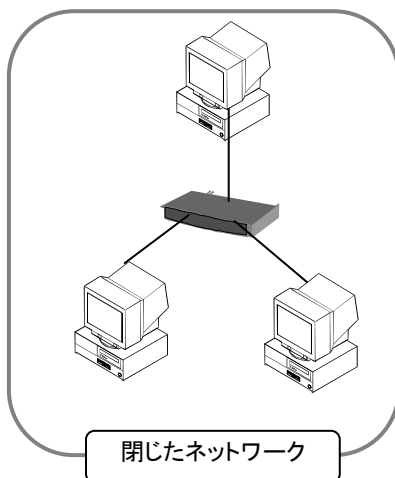
ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

IPアドレス

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

本製品および本製品に接続したパソコンのすべてに別々のIPアドレスの設定が必要です。IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の1軒1軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも1台1台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.201」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、本製品と同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」(プライベートIPアドレス)があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、通常LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境(家庭内のみ、会社内のみなど)では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。実際には、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

ここの数字でクラス分け

IPアドレス　　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.201」の場合は「192」

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２６	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127,224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

状態	参照ページ
設定画面が表示されない	75
POWERランプが点灯しない	75
パスワードを入力しても、設定画面が起動しない	75
パスワードを忘れてしまった	76
暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した	76
他のアクセスポイントと通信できない	76
無線LAN製品側のパソコンと通信できない、あるいは速度が遅い	76

設定画面が表示されない

原因１	接続が正しくない
対処	【①設定準備をする】(18ページ)をご覧になり、接続が正しいことをご確認ください。

原因２	IPアドレスの設定が正しくない
対処	【②IPアドレスを設定する】(25ページ)をご覧になり、IPアドレスの設定が正しいことをご確認ください。

原因３	Webブラウザの設定が正しくない
対処	【③Webブラウザを設定する】(34ページ)をご覧になり、Webブラウザの設定が正しいことをご確認ください。

原因４	セキュリティ関連のソフトウェアをインストールしている。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

POWERランプが点灯しない

原因	ACアダプタを取り付けていない
対処	付属のACアダプタを取り付けてください。 ACアダプタは必ず付属のものをご使用ください。

パスワードを入力しても、設定画面が起動しない

原因１	パスワードが間違っている
対処	正しいパスワードを入力してください。（大/小文字もご確認ください。）パスワードを忘れてしまった場合は、【パスワードを忘れてしまった】（次ページ）をご覧ください。

原因２	本製品と設定用パソコンの間にルータを介している
対処	本製品添付のLANクロスケーブルを使って、本製品と設定用パソコンを１対１で接続してみてください。

パスワードを忘れてしまった

対処	【出荷時設定に戻す】（70ページ）で、出荷時設定に戻してください。パスワードは出荷時設定で設定されていません。（未入力） また、その他の設定も初期化されますので、再設定してください。

暗号化(WEP)を使用したら通信速度が低下した

原因	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下します。

他のアクセスポイントと通信できない

原因	本製品同士を含むアクセスポイント同士の通信はできません。

無線LAN製品側のパソコンと通信できない、あるいは速度が遅い

原因１	無線LAN製品側パソコンの無線の設定が正しくない
対処	無線LAN製品側のモードが[Infrastructure]になっていることと、 SS IDが本製品の値と同じになっていることを確認してください。

原因２	無線LAN製品側のパソコンがWindows Me/98 SEの場合で、正常にログインしていない（パソコン起動時の［ユーザー名］［パスワード］の入力画面で［キャンセル］ボタンをクリックしているなど）
対処	パソコン起動時の［ユーザ名］［パスワード］の入力画面で正しい［ユーザ名］［パスワード］を入力してください。

原因３	無線LAN製品側のパソコンのIPアドレスの設定が正しくない
対処	無線LAN製品側のパソコンでTCP/IPを使用している場合は、正しいIPアドレスを設定してください。

原因４	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

原因５	暗号キーの設定があっていない
対処	本製品と無線LAN製品側の暗号キーの設定を同じ暗号キーにしてください。

原因６	無線LAN製品側のパソコンのIPアドレスをDHCPサーバから正しく取得していない
対処	IPアドレスをDHCPサーバから取得している場合は、DHCPサーバが起動していること、本製品の電源が入っていることを確認してから、無線LAN製品側のパソコンの電源を入れてください。 または、以下の条件のIPアドレスに手動設定してください。 ・”DHCPサーバが割り当てるIPアドレスと同一クラス”　かつ 　”DHCPサーバが割り当てるIPアドレスの範囲外”

原因７	MACアドレス接続制限されているLANアダプタから通信している
対処	MACアドレス接続制限を解除してください。（61ページ参照）

用語解説

Ad hoc［アドホック］

アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

DHCPサーバ（Dynamic Host Configuration Protocol Server）

各クライアントやEthernet機器へ起動時に動的にIPアドレスを割り当て、
終了時にIPアドレスを回収するためのプロトコルです。
同時にゲートウェイアドレスやドメイン名、サブネットマスクその他の情報を
ネットワーク上のクライアントやEthernet機器へ通知することもできます。

この動的にIPアドレスの割当を行う側の機器がDHCPサーバと呼ばれます。
ダイアルアップルータ等の機器もDHCPサーバの機能を持っています。

DS-SS［直接拡散・スペクトラム拡散方式］

スペクトラム方式の１つです。
干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet［イーサネット］

米国ゼロックス社、ディジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式です。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CDアクセス、論理バストポロジー、同軸ケーブルを使用して構成されていました。
後にIEEE802.3として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義されました。

IEEE802.11

IEEE（The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.）という非営利団体が定める無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。
IEEE802.11gでは、通信速度が54Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure［インフラストラクチャ］

アクセスポイントを介して通信する形態です。

MACアドレス（Media Access Control Address）

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。
MACアドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器のメーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。
Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

Mbps（Megabits per second）［メガビーピーエス］

１秒間に伝送するデータの単位です。
54Mbpsは１秒間に54メガビットのデータを伝送できます。

OFDM［オーエフディーエム］

Orthogonal Frequency Division Multiplex。直交周波数分割多重。

SSID（Service Set ID）［エスエスアイディー］

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SSIDが一致していないとそのネットワークには参加できません。
ESSIDと呼ばれる場合もあります。

TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）

主にインターネット上などで使用される基本プロトコルの１つです。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

IEEE802.11gに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ローミング機能

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントのSSIDとWEPが同じ設定である必要があります。

仕様

●本製品の仕様

商品名	IEEE802.11g※ 無線LAN アクセスポイント
製品型番	WN-G54/AXP
規格	無線部：IEEE802.11g※, IEEE802.11b, ARIB STD-T66 有線部：IEEE802.3, IEEE802.3u
周波数帯域	2.4GHz帯　（2.4～2.4835GHz）
チャンネル	1ch～13ch
伝送方式	IEEE802.11g※：直交周波数分割多重(OFDM) IEEE802.11b：直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	IEEE802.11g※：6/9/12/18/24/36/48/54Mbps IEEE802.11b：1/2/5.5/11Mbps 有線部：10/100Mbps(Half-duplex)、20/200Mbps(Full-duplex)
変調方式	IEEE802.11g※：OFDM with BPSK, QPSK, 16QAM, 64QAM IEEE802.11b：DBPSK, DQPSK, CCK
無線設備の種別	小電力データ通信システム
データ到達距離（最大）	屋内：約100m 屋外：約300m ※環境により変化します。
セキュリティ方式	WEP（Wired Equivalent Privacy）， MACアドレス接続制限
MACアドレス制限最大登録件数	256件
DHCP	DHCPクライアント
アクセス方式	インフラストラクチャ［Infrastructure］
アンテナ方式	可動式ダイポールアンテナ
ＬＥＤ表示	POWER, LAN, WLANランプ
イーサネットインターフェイス	10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45)コネクタ
ACアダプタ	入力：AC100V 出力：DC 12V　0.8A
電源電圧	DC 12V±5%
消費電流	最大 440mA
動作温度範囲	0℃～40℃
動作湿度範囲	10%～85%（結露しないこと）
外形寸法	約38（W）mm×120（D）mm×171（H）mm(アンテナ、スタンド含まず)
質量	約300g（本体のみ）

※IEEE802.11gは2003年4月現在ドラフトです。IEEEによる正式承認後、弊社Webサイトにて正式にご案内いたします。

●本製品の初期値（出荷時設定）

項目	初期値
アクセスポイント名	GAP******（******はMACアドレスの下6桁）
IPアドレスの設定方法	手動で設定する
IPアドレス	192.168.0.201
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ	未設定
SSID	default
チャンネル	6ch（2.437GHz）
転送速度	Auto
認証方式	Open System
WEP	無効
MACアドレス接続制限	無効
パスワード	未登録

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困った時には】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター

電話：　本社…**076-260-3644**　東京…**03-3254-1144**
※受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX：　本社…**076-260-3360**　東京…**03-3254-9055**

インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

１．ご使用の弊社製品名
２．ご使用のパソコン本体の型番
３．ご使用のOSのバージョン
４．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて
修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について
・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。
・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアル番号、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。
・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］，日中にご連絡できるお電話番号，ご使用環境（機器構成、OSなど），故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
　※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。